



第114回日本皮膚科学会総会
イブニングセミナー 15

日時 2015年
5月30日(土)
18:25~19:25

会場 パシフィコ横浜
会議センター
第4会場(5F 502)
(横浜市西区みなとみらい1-1-1)

疥癬の無い 世界を目指して

1

疥癬集団発生の予防と対処法

[座長] 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター センター長

[演者] 和歌山県立医科大学皮膚科学教室 講師

石井 則久 先生
金澤 伸雄 先生

演題

2

疥癬の撲滅を目指して

[座長] 産業医科大学皮膚科学 教授

[演者] 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター センター長

中村 元信 先生
石井 則久 先生

演題

共催:第114回日本皮膚科学会総会
クラシエ薬品株式会社



疥癬の無い 世界を目指して

1

演題

疥癬集団発生の予防と対処法

[演者] 和歌山県立医科大学皮膚科学教室 講師

金澤 伸雄 先生

疥癬は忘れたころにやってきます。ステロイドの外用不足が声高に叫ばれる昨今、疥癬を見逃してステロイド使用を継続すれば、感染が周囲に拡大してから気づくのが落ちです。特に問題となるのは病院内・施設内での発生です。疥癬と診断すれば、それ以上感染を広げない対策だけでなく、その時点ですでに周囲への潜在的な感染があることを前提に対策する必要があります。皮膚症状などから評価した感染拡大のリスクに応じて、手洗いなどの標準予防策から隔離やガウンテクニックなどの厳しい接触感染予防策を講じるとともに、潜在的感染患者に対して経過観察から臨床的診断と治療、さらに予防的治療を行います。ヒゼンダニの検出は重要ですが、検出できなくても総合的に診断し治療を行うこと、疥癬治療を行わなくても一定期間経過を追うことが求められます。本講演では、演者が経験した院内集団感染事例を紹介し、対策の実際について考えてみたいと思います。

略歴>>

1994年	京都大学医学部卒業 京都大学医学部附属病院皮膚科入局
1995年	兵庫県立尼崎病院皮膚科研修医
1996年	京都大学大学院医学研究科博士課程入学
2000年	京都大学大学院医学研究科博士課程修了 国立京都病院皮膚科医師
2001年	京都大学大学院医学研究科皮膚科学助手
2003年	ドイツ・エアランゲン大学皮膚科 ポスドクトラルフェロー
2005年	京都大学大学院医学研究科皮膚科学助手復職
2006年	和歌山県立医科大学医学部皮膚科学講師

2

演題

疥癬の撲滅を目指して

[演者] 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター センター長

石井 則久 先生

疥癬撲滅は夢でしょうか？疥癬はヒト-ヒト感染症なので、早期診断・早期治療でヒゼンダニを退治すれば可能です。早期発見のために疥癬に特徴的な症状・皮疹を理解し、検査の「ウデ」を上げることです。疥癬トンネルを見つけ、ダーモスコープでヒゼンダニを確認して下さい。疥癬トンネルの発見には手、指間、手掌、手首、足、足首、男性陰部などを中心に全身を探索して下さい。

抗疥癬薬としては有効性と安全性の高い外用薬（フェントリンローション）と内服薬（イベルメクチン）が用意されています。抵抗性ヒゼンダニを作らないように使用法を守りダニ退治をして下さい。他に用いられる抗疥癬薬はイオウ外用剤、クロタミトンクリーム、安息香酸ベンジルです。

「一処置、一手洗い」はヒト-ヒト感染のサイクルを止める簡単で確実な一歩です。疥癬診療ガイドライン（第3版）が用意できましたので、ご一読お願いします。

略歴>>

1978年	横浜市立大学医学部卒業 横浜市立大学医学部病院研修医
1980年	横浜市立大学医学部皮膚科
1981年	ドイツ、マックスプランク研究所生物学部門 (チュービンゲン) 留学 (主に免疫遺伝学、T細胞機能解析の研究)
1983年	横浜市立大学医学部皮膚科助手
1984年	横浜市立港湾病院皮膚科
1986年	横浜市立大学医学部皮膚科助手
1991年	横浜市立大学医学部皮膚科講師
2000年	国立感染症研究所ハンセン病研究センター 生体防御部部長
2009年	国立感染症研究所ハンセン病研究センター長